

NISHINOMIYA EBISU

西宮 えびす

令和四年夏号

おこしや祭



六月十四日

おこしや祭

まつり



6月14日 おこしや祭 おこしや跡地での祭典

■おこしや祭とは

西宮に残されているえびすさまのご鎮座伝説の二つに、「むかし鳴尾の浦の漁夫が沖に出て漁をしていたところ、網の中から御神像を得た。魚ではなかったのでひとまず海中に戻し、更に沖遠く和田岬辺りで漁をしていると、たまたま同じ御神像を得たのである。これは只事ではないと家に持ち帰り、お祀りしていたところある夜、御神像が夢枕に立たれ『吾はこの家の神像である。この地より西の方角にわが希望する神域があるによつて案内いたせ』とえびすさまのお告げがあった。おどろいた漁夫はえびすさまのお告げに従いお供をすることになった。ところが途中で一休みされた時、えびすさまが居眠りをされ、中々お目覚めにならない、そこで漁夫はこともあろうにえびすさまのお尻をつねって起こした。この伝説の地が御輿屋跡地であり、それより西の今の社地すなわち西宮神社にお鎮まりになられた」という伝説があります。



ます。

因みに尻ひねりの風習は現在残っていませんが、大正の初めまでは実際に

離れたおこしや跡地と呼ばれる伝説の地まで神幸します。そして跡地で御旅所祭を斎行し、しばらくご休憩いただいた後再び本殿にお戻りいただくといった当時の様子を再現したお祭りです。

おこしや祭はこの御鎮座伝説に因み、毎年六月十四日にえびすさまを御神輿にお乗せして、神社から約三百m

また話の中でお供がえびすさまのお尻をつねったということが、後世の人々の好奇心に反映して、この日参拝した若者が若い娘さんのお尻をつねってまわったという風習が残り「尻ひねり祭」と呼ばれたり、西宮ではこの日から二斉に浴衣を着始めるといふ習わしがあったことから「ゆかた祭」とも呼ばれています。この習わしはえびすさまが町においてになる日なので、新しい着物を着て、身も心もあらためてお迎えしようという気持ちの表れだとも言われています。また句のものとしてみわを献上することから「びわ祭」とも呼ばれています。

です。



ゆかた姿のびわ娘が行列を組みおこしや跡地へ

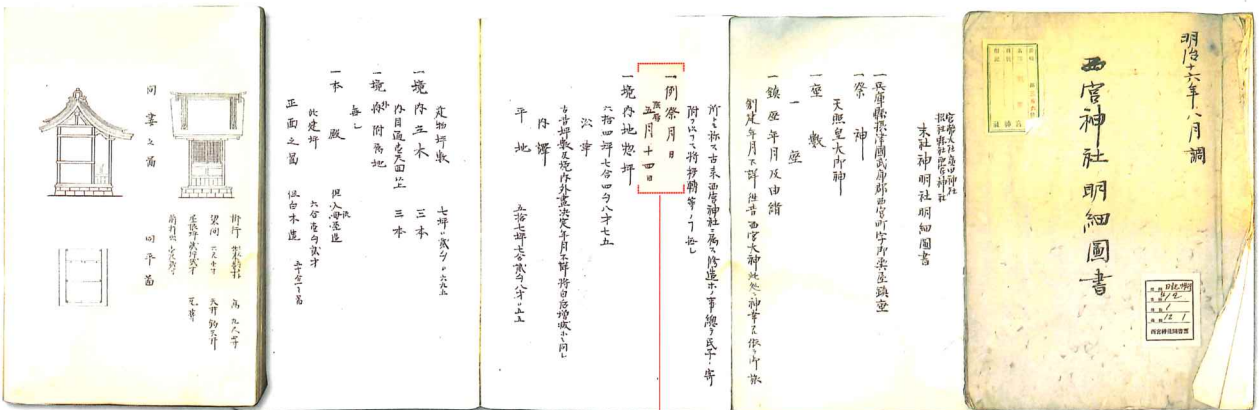
■おこしや祭の起源

おこしや祭の起源について、文献上の初見としては元亀二年(一五七二)『西宮殿年中御神事』の中に「五月十四日晚御戎四條辻御幸」の記載があります(四條辻は現在の本町通札場交差点のことで現在のおこしや跡地にあたる)。このことから少なくとも室町時代にはおこしや跡地への神幸が行われていたことが分かります。

しかし、いつの日かおこしや跡地への神幸は時中絶してしまいます。これは『西宮神社御社用日記』正徳二年二月朔日条(二七二)の中で神主吉井宮内が白川雅冬王に宛てた書付に、寛文年間頃(一六六〇)には恒例の御旅所(おこしや跡地)への神幸は中絶しており神幸を復興したい旨が書かれていることから伺えます。

その後、御旅所への神幸が復興された時期は不明ですが、祭典については正徳五年(一七二五)五月十四日条に「社中二而祝部中御旅所へ暮六つ前より罷出」と書かれています。

陰暦五月十四日に斎行されていた祭典は明治四十三年以降、現在のように新暦の六月十四日に斎行するようになりました。



『西宮神社明細図書』(明治16年)

5月14日にお祀りされていたことが記載されています

中央ロータリーにあるおこしや跡地(昭和26年頃)(西宮デジタルアーカイブより)

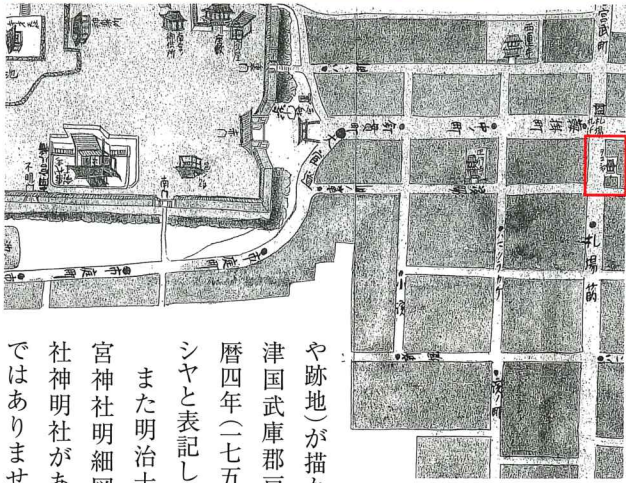
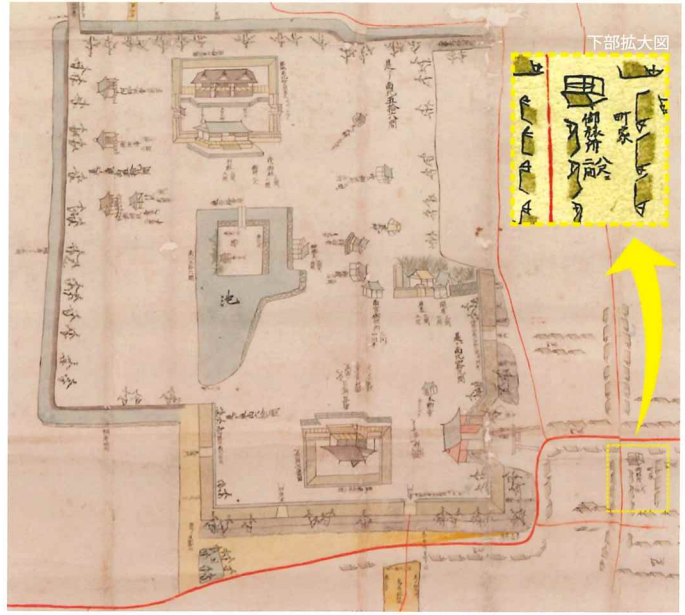


中央ロータリーでの祭典(西宮デジタルアーカイブより)



おこしや祭(昭和38年6月)(西宮デジタルアーカイブより)

西宮神社の境内の様子が描かれている最古の絵図『廣西両宮絵図』(廣田神社所蔵)貞享3年(1686)



『摂津国武庫郡戸田庄西宮町地図』(宝暦四年(一七五四)「ラニシヤ」と表記されている)

■おこしや跡地の変遷

おこしや跡地の江戸時代以前の様子は不明ですが、西宮神社の境内が描かれている最古の絵図『廣西両宮絵図』(貞享三年(一六八六)に御旅所(おこしや跡地)が描かれています。そして『摂津国武庫郡戸田庄西宮町地図』(宝暦四年(一七五四)には、御旅所をラニシヤと表記しています。

また明治十六年に作成された『西宮神社明細図書』には、御旅所に末社神明社があり、創建時期は詳らかではありませんが「往昔西宮大神此処に神幸アル依ニ御旅所トモ称ス」と記載されており、社務日誌に出てくる御旅所がこの神明社を指すと考えられます。明治四十五年四月にこの神明社は西宮神社境内の神明神社に合祀され、神明社跡に標石を止め、二廊の地を構えて保存されました。その後大正十三年八月に西宮濱久保町青年会が修築をして更に標石を建て、周囲を整理しました(戦前は札場筋の東側に跡地があった)。昭和二十六年には戦災復興計画事業

の一環として第二阪神国道工事(国道四十三号線)の際におこしや跡地石碑を中央ロータリーに移設、そして昭和三十六年には交通の妨げになるとの理由で再び札場筋交差点北西(現在のおこしや跡地)に遷されています。



大正十三年におこしや跡地が整備されたことが現在の石碑裏に記載されています



現在のおこしや跡地



ひわ娘によるひわの振舞い



えびすさまを御神輿にお乗せしておこしや跡地へ

おこしや祭ホスター
（上：昭和三十九年 下：昭和五十年）

福の神本社 西宮えびす神社
おこしやまつり
6月14日(日)

- みこしのおわたり会 午後2時
- 奉納演芸大会 午後5時
- 福びき 午後7時
- 写真コンクール 午後7時
- 句会 午後7時

阪神電車 本線西宮下車

第4回 美と健康のまつり

福の神本社
おこしや祭
西宮えびす神社
6月14日(月)

みこしのおわたり 14時30分
奉納演芸大会 18時30分
福びき 午後7時

阪神電車西宮駅下車

お買物は大阪梅田1番地ハンシン 阪神

その他のえびすさま御鎮座伝説

おこしや祭にも大きく関わるえびすさまの御鎮座伝説ですが、西宮の地域に残るご鎮座伝説の他にもいくつか由緒が残っておりますのでご紹介します。

- ①西宮神社に残されていた江戸時代中期頃に制作された縁起絵巻『西宮大神本紀』では、伊邪那岐・伊邪那美二神の御子としてお生まれになったえびすさまが三歳まで足が立たなかった為、葦の船に乗せられて大海原に流された。そのえびすさまを乗せた船が西宮浜に流れ着いたという由緒。
- ②奈良市手向山八幡宮所蔵『大倭神社註進状裏書』には、椎根津彦命が難波の海に漂う光る磐機樟船を引き上げて、武庫の浜に宮代を建ててえびすさまの御神体としてお祀りしたのが西宮神社の起こりという由緒。
- ③『古今和歌集序開書三流抄』では、不具であったため海に流されたえびすさまは、龍宮に流れ着き龍神の養子となり育てられた。そしてその後、天照大御神と再会し「親に捨てられ、龍神に育てられたおまえは下生の神であるので、下生を守る神となれ」と言われ今は津の国西ノ宮にて夷三郎と呼ばれているという由緒。

この他にもえびすさまのご鎮座伝説は各地に残されています。



『西宮大神本紀』蛭児出現の図

戦後昭和二十六年頃は、おこしや跡地まで神幸してお祭りを行っていたようですが、町の人たちも由緒を忘れ寂しい様子であったようです。当社の社報を見ると昭和三十六年になると空襲で焼失した本殿も復興され、おこしや祭も現在とはほぼ同じ形となります。午後二時発興祭を斎行して、表大門から本町筋を通り、中央商店街を経ておこしや跡地まで神幸します。跡地にておこしや祭を斎行し、御神輿はそのまま御旅所にとどまられ、午後九時まで参拝者のお参りがあり、本町筋を通じて午後十時頃に本社に還御しています。

この頃は表大門から跡地までの本町筋には露店が数多く立ち並び、本社境内では民謡・日本舞踊などの神賑行事、また毎日新聞社主催の写真コンクール、西宮俳句協会主催のおこしや祭句会などが行われて、おこしや祭の賑わいが戻っていたようです。

令和二・三年度とコロナ禍で二年連続境内外の神賑行事は縮小になっていますが、現在は御神輿を中心にびわ娘や装束浴衣を着た供奉の方々で行列を組み跡地まで神幸、また境内で露店の出店、スタンプリー、おこしや跡地の神楽奉奏などで賑わっています。

本年のおこしや祭では、えびすさまがご休憩された伝説の地であるおこしや跡地まで是非お参り下さい。

戦後・現在のおこしや祭

第2回 えびすフォトコンテスト テーマ 「笑う門には福来る」

主催/西宮神社

応募期間/令和4年5月1日～8月31日まで



新型コロナウイルスの感
染拡大により、外出を控え
られている方も多い中、福
の神「えびすさま」との繋
がりを持って頂く一計とし
て昨年に引き続き、第二回
えびすフォトコンテストを

開催致します。

今回のテーマは「笑う門には福来
る」です。

えびすさまのお顔は、いつでもニコ
ニコ笑顔です。えびすさまのような
福々しい笑顔の写真や、心温まるみん
なが笑顔になれるような写真を募集
致します。皆様の幸せな「笑」を集めて
大きな福をお招きしましょう。たくさ
んのご応募お待ちしております。

応募 方法	当社インスタグラムへの投稿、 現像写真の送付 ※人物・動物・風景・構築物など ジャンルは問いません。
受賞 発表	令和4年10月1日(土)

協賛: いぬづか写真室、(株)シュゼット・ホールディングス、
辰馬本家酒造(株)、長崎写真場、阪神米穀(株)

※詳細は西宮神社公式ホームページをご覧ください。

<https://nishinomiya-ebisu.com>

重要文化財保全修理工事
竣工記念事業

えびす懸賞論文募集

色鮮やかに塗り替えられた表大門



修復された大練塀



※詳細は西宮神社公式ホームページ
「えびす懸賞論文募集について」をご覧ください。

令和二年度重要文化財「表大門(赤門)」の塗り替え工事、令和
三年度同「大練塀」の修理工事の竣工を記念してこの度、「えびす
懸賞論文」を募集しております。
皆様のご応募お待ちしております。

テーマ「えびす信仰について」

西宮神社のえびす信仰や全国各地のえびすさまにかかわる
祭礼・風習・えびす講・えびす神札(御神影札)など

● 募集期間: 令和四年四月一日～九月三十日まで

● 応募資格: 日本国内在住の方であれば、
どなたでもご応募出来ます。(共同執筆不可)

● 賞: 最優秀論文賞(えびす賞) : 表彰状、賞金三十万円、記念品
優秀論文賞(宮司賞) : 表彰状、賞金十五万円、記念品
奨励賞(若えびす賞) : 表彰状、賞金 十万円、記念品
各賞一名

つきさま 月参りのご案内



当

社では、ご希望の方に「えびすさまの月参り」を奉仕致しております。毎月皆様の都合の良い日にご祈祷をお受け頂き、えびすさまとのご縁を強く結び、ご祈願が成就されますよう、又益々ご繁栄されますようご案内申し上げます。

月参りのご祈祷を受けられますと、ご祈祷後境内おかげ茶屋で休憩頂けるお茶券を進呈致します。

また令和四年度より撤下品を新たに調製しました。お参りした月を淨書した「月参り祈禱札」、月参り祈禱守、「入浴剤セット【福寿】」などをお授け致します。

是非毎月えびすさまにお参り頂き大きな福をお受け下さい。



えびすさまの月参り 参拝証

西宮神社社務所

月参り参拝証



月参り祈禱札



月参り祈禱守



入浴剤セット【福寿】

●申込方法

「えびすさまの月参り」でお参りの方は受付にお申し出下さい。最初に「月参り参拝証」をお渡し致します。次回月参り参拝の際、受付にご提示下さい。

えべっさん おまいり 手帳

えべっさんに
参拝して
スタンプを
集めよう！



西宮神社では1年間にたくさんの神事・行事を行っております。

小学生以下のお子様を対象に「えべっさんおまいり手帳」を無料でお配りしております。

四季折々の神事・行事に参加して頂き、えびすさまの福をたくさんお受け下さい。

所定の神事・行事に参加し、スタンプを10個以上集めたお子様にはささやかな記念品をお渡し致します。

神社参拝の楽しみにして頂ければ幸いです。

- お申し込みは、社務所講社本部・祈祷受付にてお声掛け下さい。
- 所定の神事・行事に参加頂くごとに、1つスタンプを押印します。また、七五三や十三参りなどの人生儀礼に纏わるご祈祷をお受けになられた時や、春・夏の神社体験会や秋の稚児行列などの行事に参加された際も同様に押印します。
- 帳面にスタンプを10個貯められた方には記念品を用意していますので神事・行事に是非参加して下さい。

お申込み：西宮神社社務所
お問合せ：TEL 0798-33-0321

メールでのお問い合わせは
saigi@nishinomiya-ebisu.com

「大漁!!」

海とえびすさま展

令和四年四月一日(金)～六月二十九日(水)
開館時間：午前九時～午後四時

社務所一階えびす信仰資料展示室にて「大漁!!海とえびすさま展」を開催しております。

記紀の中では、伊邪那岐神(イザナギ)と伊邪那美(イザナミ)の間に生まれた水蛭子(ヒルコ)は、身体が不自由であったため、小さな舟(葦の舟)で海へ流されたと言われています。

その後、水蛭子(ヒルコ)がえびすさまとして祀られるようになったのは、神戸・和田岬の沖で、鳴尾村の漁師が御神像を拾い上げお祀りしたのが始まりだという伝承が残されています。

このようにえびすさまの起源でもあり、深い結びつきがある「海」との関係テーマにした今回の展示では、鯛を釣ったり、抱えたえびすさまの御神像や大漁旗などを展示しています。

また万祝(まいわい)という江戸時代から、漁師の間で広まったとされる大漁を祝う晴れ着も見どころです。実際に昭和初期頃に使用されていたものであり、今では中々見かけることのない代物です。参拝の際には是非お立ち寄り下さい。



次回展示企画 第38回企画展

令和4年7月1日(金)～9月29日(木)
開館時間：午前9時～午後4時



▲旅する人形座の手描きポスター
活動人形劇とは明治から昭和にかけて東北で盛んだった猿倉人形芝居を指す

傀儡師発祥の西宮神社ならではの、夏休みにかけた今回の企画展示は「人形劇」と「旅」をテーマにした『人形劇世界旅行』です。まずは、西宮からはじまり、えべっさんの「宝船」で、海を越えて世界各地をぐるっと巡る、めずらしい人形劇の世界旅行なのです。

そこには日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカもあり、人形劇の世界旅行は今までにない出会いとなり、とても興味深いものになるかもしれません。

人形劇と旅にまつわる「人形劇の図書館」秘蔵のポスター、プログラム、浮世絵、引札、摺物、人形、本などさまざまな、貴重資料をも含む展示は、まるでおもちゃ箱をひっくり返したようにバラエティにとんで、ご家族の皆様と一緒に楽しんでいただけます。さあ、えべっさんと一緒に『人形劇世界旅行』へ出発しましょう!

『人形劇世界旅行』



▲ドイツ・ミュンヘン市立人形劇博物館ポスター
日本を始め世界の人形劇が展示されている

▲チェコ・ピルゼン国際人形劇フェスティバルポスター
世界中から人形劇が集まって開催される

文化研究所だより

(十五)

千葉房総半島の西宮えびす信仰

社務所内のえびす信仰資料展示室には「江戸時代（中後期）の願人分布図」と題するパネルが二枚架けられています。願人とは、西宮神社から免許を得て、担当する旦那場の諸家にえびす神の像札（御神影札）を配り回る人々で、関東から東北地方にかけて広く活動していました。パネルは彼らが現在のどの市町村に分布していたかを、地図上で把握できるように作られています。また願人の名前も掲載されています。

そうした中で非常に興味深いのが千葉県の房総半島です。千葉県域の願人の分布を見ると、八千代市・佐倉市・野田市など県北西部と太平洋・東京湾の沿岸地域に広く分布しています。つまりえびす神像札を配り歩く願人の活動を介して、房総半島の沿岸部全体にえびす信仰が根付いていたと考えられます。

ではこれらの地域に西宮のえびす信仰が広がるきっかけは何だったのでしょうか。そのヒントになるのは、えびす神が商業はもちろん漁業の神様でもあることです。

そもそも房総半島と西宮の繋がりは江戸時代の初めにさかのぼります。

千葉県鴨川市天津（旧安房国長狭郡天津村）の善寛寺に、文政八年（一八一五）に書かれた「先祖六右衛門從申伝事」という古文書が伝わっています。この史料に「某祖先八撰津武庫郡西宮産ニテ」とあり、六右衛門（名字は四位）が西宮出身者だったことが分かります。

また六右衛門は江戸時代の初め、江戸本船町の商人米屋太郎兵衛の紹介を受け、房総半島南部の船形村（現千葉県館山市船形）にて魚商売や廻漕業で出世した西宮四郎左衛門を頼り、同村で魚商業を始めたといえます。実は太郎兵衛も四郎右衛門も西宮出身で、同郷人のつよい支えもあつて六右衛門の商いは成功し、資金を貯めた彼は天津村へ移住し事業を上げます。ちなみに寛永十五年（一六三八）頃の天津村には西宮出身者の店舗が十四、五軒あつたらしく、船形村に近い館山村でも西宮出身の座古屋佐治兵衛が廻漕業で財を成していました。即ち急成長する大都市・江戸の魚需要に応える形で、房総半島に進出した西宮出身者の魚商売が発展したと言えるでしょう。

但し彼らは主に魚の売買に携わる商人であり、取引される魚の收穫が無いと商売にはなりません。その意味で房総半島に限らず関東の沿岸地域全体に多大な影響をもたらしたのが、撰津・紀伊・和泉などの関西漁民の関東進出です。

長く政治や経済の中心だった関西地方は、漁獲技術の面でも先進的な漁法を編み出していました。特に農業肥料（干鰯）の原料として膨大な需要があつた鰯は、わら縄を用いた地引き網漁法により、効率的に大量の漁獲高を得ました。このような高度な技術を持つ漁民たちが、江戸開幕に伴う平和の到来とともに新たな漁場を求めて関東へ進出しました。その先駆者の一つが西宮の漁民で、彼らは早くに江戸や房総半島の沿岸地域に移り住み、現地の漁民と連携して漁法の改良と定着に尽力しました。

また漁獲技術だけではなく、干鰯の生産や流通の発展にも深く関わり、関東の漁業は大変盛んになりました。こうした活況が西宮漁民や商人の移住を一層促し、慶安三年（一六五〇）には西宮の惣左衛門が仲間とともに銚子で漁業を営むに至っています。

しかしあくまでも魚は自然の恵みなので、商売や漁の成否は人間の思う通りにはならず、実際に「板子一枚下は地獄」を経験した人もいたでしょう。そんな困難をばね除けて、必死に生き抜こうとする彼らの「折り」が向かうのは、商業と漁業の神様であり、遠い故郷西宮のえびす神をおいて他にはなかつたと思います。

例えば千葉県勝浦市浜勝浦に鎮座する西宮神社は、当地で商売を行っていた西宮の富商丸山八郎右衛門が、貞享元年（一六八四）に西宮の神を奉祀して創建したとの由緒が伝わっています。また西宮町名次町に鎮座する名次神社の境内には「上総国（＝房総半島北部）浦々西宮講中」と刻まれた石祠があります。

従って冒頭にお話ししたえびす神像札を配る願人の活動も、江戸時代初期に新天地へこぎ出した西宮漁民や商人たちの（物語）の中に位置づけられるのです。西宮と房総半島は約四五〇キロの隔たりがありますが、西宮のえびす神への信仰が二つの地域を深く結びつけていたと言えるでしょう。

（西宮神社文化研究所主任研究員 戸田靖久）

参考文献：『西宮市史』第二巻（西宮市役所、一九六〇）

吉井貞俊「えびす信仰とその風土」

（国書刊行会、一九八九）

十日参り

● 現在「十日参り」で行っている事

①【中旬祭】

午前十時「本殿」

②【季節の花 献華】

西宮神社華務職による生花の献華「本殿」

③【とおかしの頒布】

中旬祭参列者「本殿(おかも茶屋でも販売しています)」

④【沖恵美酒神社月次祭】

午前十一時「境内末社 沖恵美酒(あらえびす)神社」

⑤【えびす舞の上演】

人形芝居えびす座による「えびす舞」の上演「本殿西広場」

⑥【末社巡拝】

中旬祭後、十一社ある境内末社への巡拝「境内各末社」

一月十日の「十日えびす」にちなんで、毎月十日に「十日参り」を行っております。「十日参り」では、六つの神事・行事で、境内は多くの参拝者で賑わっています。是非「十日参り」にお越し頂き、えびすさまの更なるご神徳をお受け下さい。



3月献華
レンギョウ、キンギョソウ、
カーネーションなど



昨年より行っております西宮神社華務長岡田芳和先生、華務職岡田脩克先生、白井陽甫先生による十日参りの献華を、本年度も引き続き本殿にお供え頂きます。毎月色とりどりの季節の花を生けて頂きますので、中旬祭にご参列頂きお楽しみ下さい。

また本年度から新たに拝殿前に春・秋二回季節の花を生けて頂きます。四月は、枝垂桜、牡丹桜をはじめスイートピーやガーベラなどのお花を豪華絢爛に飾りました。そちらも併せてお楽しみ下さい。

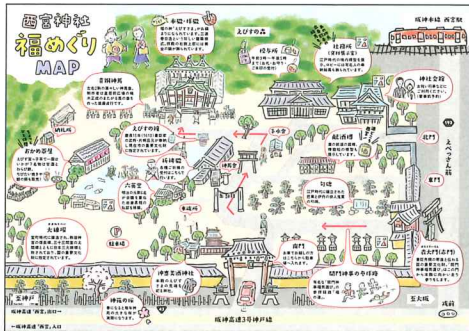


4月拝殿献華

西宮神社 福めぐりMAPができました。

十日参りでは中旬祭の後、境内に11社ある末社への巡拝を行っております。

この度、末社の場所やご利益が知りたいという方に向けて「西宮神社 福めぐりMAP」を作成致しました。



末社以外にも境内各所がイラストとともに分かりやすく説明付きで載っています。社頭に置いてありますので、どうぞご自由にお持ち下さい。また当社公式ホームページからもダウンロード出来ます。

鳴尾八幡神社兼務について

令和三年十二月二十一日より兵庫県西宮市上鳴尾町に鎮座する鳴尾八幡神社を兼務する事となりました。十二月二十六日には宮司就任奉告祭を執り行い、当社の宮司が鳴尾八幡神社の宮司を兼ねる事となりました。

そして令和四年正月から歳旦祭をはじめ各祭典を斎行し、無事に新年を迎えることが出来ました。鳴尾八幡神社はここ数年宮司不在で神事が滞っていました。境内も多くの参拝者で賑わい、氏子の方々が長らく願われていた鳴尾八幡神社の再興が叶いました。

仮殿での祭典の様子



仮殿遷座祭 本殿で祝詞奏上の様子



鳴尾八幡神社参道

■本拝殿屋根修理について

平成三十年九月の台風の影響により大木が倒れ、本拝殿屋根が破損していたのを受けて、令和四年二月二十七日に仮遷座祭を執り行いました。祭典は夕闇の静寂の中、厳かに執り行われ、八幡大神様は無事に本殿西側の仮殿にお遷しされました。現在本拝殿屋根修理工事を行っており、六月末に完了予定です。ご協賛頂ける方は西宮神社までご連絡下さい。

今後とも各種祭典等執り行っていくしますので、鳴尾八幡神社にも是非ご参拝下さい。

台風で破損した本拝殿屋根(平成30年)



(TEL:0798-310311)



阪神・淡路大震災から復興した本殿(平成12年)



ご提供しています。また毎月十日限定で各店舗・境内おかも茶屋でも販売しております。

中旬祭の後、ご参列頂いた方には「とおかし」として和菓子をお配りしております。「西宮和菓子ブランド発信事業実行委員会」に参加の市内和菓子店が中心となって開発し、各店月替わりで「とおかし」を

七月十日
御菓子司
昇月堂



九月十日
谷矢製館

『えびす金鰻』



長月

十二月十日
和菓子所
桔梗堂



霜月

三月十日
成田屋

『えびす舞』



弥生



こんどの七五三は
しっかりオシャレして
えびすさまに
お参りしましょ♪

衣装・お着付け・大切なお祝いの一日は
西宮神社会館にすべておまかせ。

七五三パック
¥36,000

貸衣装・着付
写真(一式)

お母様のヘアセット・
着付・前撮り・スナップ
写真も承ります。

七五三衣裳の展示ご予約会

6/25(土)・26(日) 7/17(日)・18(月・祝)
8/5(金)・6(土) 9/18(日)・19(月・祝)
10/9(日)

※新型コロナウイルスの影響により
日程変更になる場合がございます。

受付開始:令和4年6月1日(水)から



info@jinjakaikan.com 西宮神社会館 ☎(0798)23-3311

編集室から

おこしや祭は新型コロナウイルス感染症の影響で、令和二年度は関係者のみでおこしや跡地へ神輿渡御をしましたが、神輿行事は全て中止、令和三年度は緊急事態宣言発令中であつた為止む無く跡地への神輿渡御も中止となりました。今号では、本年こそはおこしや祭の賑わいが戻ることを願ひ特集を組みました。

ご鎮座伝説の重要地であるおこしや跡地の変遷については、戦後の混乱などもあり神社にも資料がありません。西宮市市役所総務課公文書・歴史編纂資料チームや西宮市役所文化財課の皆様にご協力をお願いしました。茲に御礼申し上げます。皆様におこしや祭や跡地の由緒を知っていただき、当り少くとも多くの方がおこしや跡地までお参り頂き、賑わいが戻ればえびすさまもお喜びになることでしょう。

まだまだ新型コロナウイルス感染症の終息の見通しがつかず、賑わいが元通りになりませんが、少しでも皆様が気持ちよく参拝していただけるような四季折々の献華やお参りが叶わなくともえびすさまとのご縁を結んでいただけるフォトコンテンツ・懸賞論文などの行事企画を引き続き行っております。コロナ禍からの復興を目指し賑わいを取り戻すべく企画しておりますので、是非皆様のご参拝、ご参加をお待ちしております。

西宮神社
公式ホームページで最新情報を
公式Instagramも開設!
ご覧ください。



西宮神社
公式サイト



西宮神社
公式Instagram

西宮神社 公式サイト

検索

https://nishinomiya-ebisu.com

発行/西宮神社 〒662-0974 兵庫県西宮市社家町1-17 電話 0798-23-3311 FAX 0798-23-3311

編集/文化課 印刷/小西印刷所